

新型コロナウイルス危機を乗り越えた先に
～芸術がもたらすものに想いを馳せて～

現状の世界を理解し、 希望を持って前進する

武豊町民会館 館長
竹本 義明



今年になって新型コロナウイルス感染症の急速な拡大が社会に多大な被害をもたらしています。4月7日に7都府県に緊急事態宣言が発令され、16日には対象地域を全国に拡大しました。

愛知県では5月6日まで県全域を対象として、劇場、集会・展示施設、文教施設が基本的に休止を要請される事態となっています。舞台芸術公演は、密閉・密集・密接という感染症にとって好ましくない条件のもとで上演されることから、予定されていた事業は中止あるいは延期が相次いでいます。

感染拡大を防ぐため外出自粛要請等への協力や、社会機能維持のための事業の継続など、市民の行動変容が求められています。すでに劇場を併設する近隣の文化施設では5月中の休館を決めているところもあります。

この危機はいつ乗り越えることができるか予測ができませんが、過去の歴史が物語るように「現状の世界を理解して、将来へ確固たる希望を持って前を向いて前進する」ということが乗り越える唯一の方法と考えられます。同時に芸術が活力ある社会形成に必要な社会基盤であることを認識し、限られた条件の中で心の支えとして接していくことが望まれています。

あらためて舞台芸術を取り巻く状況について目を向けると、鑑賞者の意識の多様化に伴い、劇場ホールが多目的施設から専用施設として新設されるようになりました。それに合わせて客席数も目的に合わせた収容席数を設置するようになっています。

舞台はICT(情報伝達技術)の発展に伴い、音響や照

明機材の性能向上もあり大きく様変わりしています。そのような中で従来からのオペラ、バレエ、交響楽、室内楽、ジャズと言うジャンルは欧米各国での観光客による集客を除けば、鑑賞者は世界的に減少傾向となっています。

一方で実演によらない鑑賞を支えてきたCDなどの録音物の売り上げが大きく減少し、ダウンロードやストリーミングによる音楽配信が大きく拡大しています。そして、この10年間でポップス関係のライブ公演は3倍にも膨れ上がっています。また、新しい舞台芸術として漫画やアニメ、ゲームなどを原作・原案とした2.5次元ミュージカルが注目を集め、舞台収録した映像パッケージ販売の2次利用も収益を上げています。

今回のコロナウイルス危機により、新しい舞台芸術はさらに躍進することが予想されますが、一方で実演による舞台芸術が見直され、鑑賞への要望が高まることも期待されています。

本館はすでに事業の実施を周知していただくため、実演に伴うワークショップやアウトリーチ活動を実施してきました。そして事業の成功例としてモーニングコンサートやサロンコンサートが毎回満員の観客を迎え地域の文化拠点としての役割を果たしてきました。

それは、実演者が一方的に観客に演ずるのでなく、相互に作用するインタラクティブな舞台を心がけてきたことが影響していると考えています。この活動を維持発展させ地域の活力を生み出し、伝統文化の保全・継承と連携し創造的な地域づくりに寄与できることを願っています。